

# 花店における花作業の従事者にみられる身体の異常反応

米田和夫<sup>1</sup>・斎藤剛敏<sup>1</sup>・鈴木基夫<sup>2</sup>

<sup>1</sup>日本大学生物資源科学部 252-8510 藤沢市亀井野

<sup>2</sup>元日本大学短期大学部 252-8510 藤沢市亀井野

## Health Problems of Workers at Flower Shops

Kazuo YONEDA<sup>1</sup>, Taketoshi SAITO<sup>1</sup> and Motoo SUZUKI<sup>2</sup>

<sup>1</sup> College of Bioresource Sciences, Nihon University, Fujisawa, Kanagawa 252-8510, Japan

<sup>2</sup> Ex-Junior College of Nihon University, Fujisawa, Kanagawa 252-8510, Japan

### Summary

The workers at flower shops have some influences on their health from flower-plants. They suffer from different symptoms such as rough hands, skin-eruption, sneezing, running nose, itching and rash.

This investigation was carried out to clarify such situations, based on the analysis of the collected data from the workers at several flower shops, primarily in Tokyo.

**Key Words** : flower-plant, flower shops, health of worker, symptom

### はじめに

花店における花卉の利用にともなって、職業性のアレルギー症状と思われる反応や手荒れ、かぶれなどが生じている。これらは花卉の需要に対応して新しい種類の作物の利用が増加したこと、露地栽培に比べて降雨などが少なく残留農薬が多いと思われる施設栽培花卉の増加にともない花店の従業員が多種類の作物と多種類の農薬に接触する機会が増加したことによると考えられる。

本報告は、この点に注目して花店の従事者を悩ます手荒れ、かぶれ、くしゃみ、鼻水、痒み、発疹などの発症の現状を調査し、花産業に従事する人に対する将来への対応や対策を考えるための事例資料を作成することを目的として行ったものである。

### 調査方法

2001年5月から9月にかけて、東京郊外の市部を中心とした花の小売店に対してアンケート調査を行った。質問項目は、回答者の性別と年齢、植物に触れた時の症状、原因であると特定できる植物名、アレルギー体質の有無、症状に対する対応の方法などである。

2002年10月16日受付。2003年2月3日受理。

本報は人間・植物関係学会2002年大会（九州大学）において発表した。

アンケートは直接小売花店に行き、店主の了解を得た後、従業員に調査用紙を手渡し、後日回収する方法で実施した。その結果、41店舗85人から回答を得ることができた。

なお、調査地域は東京都八王子市、立川市、日野市、あきる野市、調布市、清瀬市、国分寺市、昭島市、府中市、神奈川県相模原市および山梨県大月市であった。

### 調査結果

性別および年齢別にみた発症例は第1表のとおりで、男性は50才代が、女性は20才代から50才代が多かった。何らかの症状があると回答した人は85人中66人（発症率78%）であり、男女別では、男性が43人中37人（発症率86%）、女性は42人中29人（発症率69%）であった。

症状が出たという回答の内容について、植物の種類別に第2表に列挙した。これによれば、植物は45種類、回答総数は150回答であった。主な症状の回答数は、くしゃみが19種類の植物から69で、そのうちアレルギー体質者は40回答、痒みが32種類の植物から66回答で、うちアレルギー体質者は35回答、湿疹が29種類の植物から56回答で、うちアレルギー体質者は38回答であった。

回答数の多い主な植物は、キクが30、ついでコギクが

第1表. 性別および年代別にみた花作業者の身体の異常反応の発症件数.

年代	男 性			女 性			合 計		
	回答数	発症数	発症率(%)	回答数	発症数	発症率(%)	回答数	発症数	発症率(%)
20	8	7	87.5	11	8	72.7	19	15	78.9
30	6	4	66.7	9	7	77.8	15	11	73.3
40	5	4	80.0	8	4	50.0	13	8	61.5
50	20	18	90.0	10	6	60.0	30	24	80.0
60	1	1	100.0	1	1	100.0	2	2	100.0
未記入 <sup>z</sup>	3	3	100.0	3	3	100.0	6	6	100.0
計	43	37	86.0	42	29	69.0	85	66	77.6

z: 年代は不明.

第2表. 症状の出た植物の種類と症状, 回答人数ならびにアレルギー体質の有無.

植 物	症 状	回答人数	アレルギー体質者数
キク科			
アーティチョーク	接触部に赤い斑点が出て, 痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	1	1
	接触部に赤い斑点が出て, 痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	2	2
アザミ	腕に赤い湿疹ができ, 痒くなる.	1	0
	触れるとすぐに手, 腕に赤く湿疹が出て痒くなる.	1	1
アワダチソウ	くしゃみ.	1	0
エリンジウム	腕に赤い湿疹ができ, 痒くなる.	1	0
	くしゃみ, 鼻水 (喉に異変).	13	6
	くしゃみ, 鼻水, 抱えた両腕に赤い湿疹と痒みと鈍痛.	2	2
キク	くしゃみ, 鼻水, 湿疹.	3	2
	くしゃみ, 鼻水. 鼻の内外及び顔全体の痒み, 指の皮膚が剥がれ, 爪がもろくなる.	3	0
	くしゃみ, 目の痒み, 指が荒れる.	2	2
	接触した箇所に異常.	4	1
	くしゃみ, 鼻水, 目の痒み.	2	1
	手がアクで黒くなり, 洗うと黄色くなる.	1	0
小ギク	くしゃみ, 鼻水 (喉に異変).	11	4
シオン	接触した箇所が赤く発疹.	1	0
スプレーマム	くしゃみ, 鼻水, 目の痒み.	1	1
ソリダゴ	くしゃみが止まらなくなる (見る目が痒くなる).	2	0
ソリダスター	くしゃみ.	1	1
	接触部に赤い斑点が出て痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	1	1
	接触部に赤い斑点が出て痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	1	1
ヒマワリ	接触した箇所が赤く発疹.	1	0
	くしゃみ.	1	0
ベニバナ	触るとすぐに手, 腕に赤く湿疹が出て, 痒くなる.	1	1
ヒメヒマワリ	触るとすぐに手, 腕に赤く湿疹が出て痒くなる.	1	1
ルリダマアザミ	手首, 顔, 首などに赤い湿疹が出て, 痒くなる.	4	3
ユリ科			
アルストロメリア	手がかぶれる.	1	1
ユリ	手がアクで黒くなり, 洗うと黄色くなる.	1	0
セリ科			
ウイキョウ	接触部に赤い斑点が出て痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	3	2
	鼻がむずむずして, くしゃみが出る.	1	0
レースフラワー	くしゃみ, 鼻水 (喉に異変).	2	1
フランネルフラワー	くしゃみ, 鼻水.	2	1
ウルシ科			
ウルシ	くしゃみが出る.	1	0
ナデシコ科			
カーネーション	くしゃみ, 鼻水. 鼻の内外及び顔全体の痒み, 指の皮膚が剥がれ, 爪が脆くなる.	1	0
	手がアクで黒くなり, 洗うと黄色くなる.	1	0
ウコギ科			
カクレミノ	体全体が赤く痒くなる (特に背中, 脇腹).	1	0
	手, 腕が痒くなる.	1	0
サトイモ科			
カラー	手, 腕が痒くなる.	1	0
ディヘンバキア	手や腕が痒くなる.	1	0
キキョウ科			
	接触部に赤い斑点が出て痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	2	2
	触るとすぐに手, 腕に赤く湿疹が出て痒くなる.	1	1
カンパニュラ	くしゃみ, 目の痒み, 指が荒れる.	1	2
	接触部に赤い斑点が出て痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	1	1
	くしゃみ, 鼻水, 目の痒み.	1	1
ブルーボール	接触部に赤い斑点が出て痒くなり, その後くしゃみが出る. 掻くと水疱ができる.	1	1
ゴクノハグサ科			
キンギョソウ	手がかぶれる.	1	1
ツバキ科			
サカキ	くしゃみ, 鼻水. 鼻の内外及び顔全体の痒み, 指の皮膚が剥がれ, 爪がもろくなる.	1	0
ツバキ	両腕に発疹.	1	0

イネ科			
スモークグラス	くしゃみ、鼻水、手、腕に湿疹が出来て痒くなる、手、腕、鼻、目が痒くなる。	1	1
ツツジ科			
ナツハゼ	抱えたときに腕に痒み、発疹が出る（手の平、甲には出ない）。	1	1
バラ科			
ナナカマド	柔らかい場所がかぶれる（首筋、腕など）。	3	1
バラ	腕に赤い湿疹ができ、痒くなる。 手がアクで黒くなり、洗うと黄色くなる。	1	0
ベニスモモ	両腕に発疹。	1	0
ライデン	抱えたときに腕に痒み、発疹が出る（手の平、甲には出ない）。	1	1
メギ科			
ナンテン	抱えたときに腕に痒み、発疹が出る（手の平、甲には出ない）。	1	1
タカトウダイ科			
ハツユキソウ	手、腕が痒くなる。	1	0
ユーホルビア	液でかぶれる。	1	1
トウダイグサ科			
ハナキリン	くしゃみが出る。	1	0
サクランソウ科			
プリムラ・オブコニカ	接触部が赤く発疹し、かぶれる。	8	5
トウワタ科			
ブルースター	接触部に赤い斑点が出て痒くなり、その後くしゃみが出る。掻くと水疱ができる。 腕に赤い湿疹ができ痒くなる。 べたべたした液体がついて洗っても落ちない。 手が痒くなる。顔に発疹。	4 5 1 1	3 3 1 0
ミカン科			
ボロニア	喘息のようになり、声が出なくなる。	1	1
マメ科			
ミモザアカシア	くしゃみ。	1	1
ラン科			
輸入デンファレ	接触した箇所に異常。	1	0
その他、不明			
枝物	抱えたときに腕に痒み発疹が出る（手の平、甲には出ない）。	1	0
不明 <sup>z</sup>	鼻の中が痒くなる。	1	0
不明 <sup>z</sup>	手の表面に湿疹が出てアカギレの症状に似ている。唇にも出る。	1	0
不明 <sup>z</sup>	気管支などに喘息を起こす。	1	1
不明 <sup>z</sup>	指先に霜焼けのようなものができる。触ると痛い。	1	0
未記入	水揚げをして、しばらくすると手の甲が痒くなることもある。	1	1
無し		19	1

z：植物名が特定できなかったもの。

第3表. 花作業により身体に異常が発症した時の対処法。

対 処 法	回答数
特に何もしない（治るまで放置しておく）	24
患部をよく洗う	16
塗り薬を塗る（市販薬）	9
手袋や長袖の服を着用する（軍手、ポリエステルの手袋）	6
病院で処方した塗り薬を使用する	4
花から離れる、触れないようにする	3
通院し、塗り薬と飲み薬を処方してもらう	3
病院に行き、薬を処方してもらう	3
マスクを着用する	2
冷やす	2
鼻をかむ	2
うがいをする	2
飲み薬、点鼻薬、目薬を使用する	1
投薬、点滴治療を受ける	1
ステロイド軟膏を塗る	1
水分を取る	1
水泳による体質改善をする（花粉症）	1
空気清浄機を店内に設置する	1

14、ブルースターが11、プリムラ・オブコニカが8であった。

主な症状は、キクではくしゃみ、ブルースターは痒み、プリムラ・オブコニカは湿疹であった。また、回答の一部には、冬季皮膚の乾燥によって手荒れが出やすくなるとの記載もあった。症状のうち、痒み、湿疹、かぶれは接触性皮膚炎で、くしゃみは花粉症によるものと推察される。

アンケート回答者で何らかの症状が出たと答えた66人の各症状に対する対処法をまとめたものが第3表である。回答件数が多かった対処法として、「患部を洗う」が16件、「市販の塗り薬を塗る」が9件、「手袋や長袖の着用」が6件であった。58回答のうち、「病院で処方してもらった塗り薬」や「飲み薬を使用したり」、「点滴治療」などの処置を行ったケースは12件と比較的少なかった。

### 考 察

ここ数年来オーストラリアや南アフリカなどから新しい植物が切花、鉢物として導入され、利用されている。これらのもつ毒性については、それらを取り扱っている業者も知らないという。また既存の種類の中にも、ウルシ、

カクレミノ、ディヘンバキア、ナンテン、ハナキリン、ポインセチア、カンパニュラなど毒性のある植物が含まれている (Paulsenら, 1998)。

作物の栽培や調整を行う農家ではゴム手袋を使用している例も多い。一方、多種類の植物を扱う花店従事者は、植物体(茎)を切り戻すときや枝が折れた際に乳液などの出る植物では、かぶれが生ずることがあることから、注意して作業を行うが、新しい植物や品種対応する知識は事前に入手できているとは限らない。また、単一作物のみであれば、栽培中ならびに収穫後に使用された農薬の種類や特性を知り得ても、多くの植物を商品として取り扱う花店では、多種類の残留農薬に接する機会も多いと推察される。また、同一花材、特にキク科植物では扱う種類も多く、これらを反復して接することにより、アレルギー症状が発症する機会も増すと考えられるので、そのことに対する対応策も考えていく必要がある(新見, 1998; 渡辺・吉川, 1983; 斎藤ら, 1982)。

残留農薬の毒性については、食品の場合は、厳しく検

査されるが、観賞植物に付着した農薬の人体への影響については、今までのところほとんど考慮されていないようである。新しい種類の作物の安全性についての知識の習得が事前に適正に行われれば、本報告で取りあげたような職業上生ずる障害の減少も図られるものと考えられる。

#### 引用文献

- 新見やよい. 1998. 農業・園芸作業時の接触皮膚炎. 日本醫事新報 No.3893:113-114.
- Paulsen, E., P. S. Skov and K. E. Anderson. 1998. Immediate skin and mucosal symptoms from pot plants and vegetables in gardens and greenhouse workers. *Contact Dermatitis* 39:166-170.
- 斎藤文彦・村尾太郎・漆畑 修. 1982. 最近6年間における植物接触皮膚炎. *皮膚* 24(2): 238-249.
- 渡辺 薫・吉川邦彦. 1983. 花屋に見られた植物性皮膚炎. *皮膚* 25(4): 660-663.